

平成 25 年度 第 3 回 市長と語ろう！タウンミーティング 議事録

開催日時 平成 25 年 6 月 26 日（水） 午後 7 時～8 時 30 分

開催場所 南山内公民館

参加者 市民 17 人

《フリートーク（意見交換）》

- 1 国道 355 号バイパスの工事状況について
- 2 道祖神峠の要望書について
- 3 区長要望の窓口について
- 4 生活道路の整備について
- 5 今後の行政改革について
- 6 通学路への大型車の進入について
- 7 笠間中学校への進学者が増加した理由について
- 8 農薬の処分について
- 9 いじめ防止法の対応について
- 10 若い人が意見交換をする場や、世代間の交流ができる場はあるのか
- 11 笠間稲荷神社門前通り整備計画について
- 12 笠間稲荷神社から笠間駅までの活性化について
- 13 見守り協定について
- 14 緊急通報システムについて
- 15 田上地区の市道の整備について
- 16 T P P 締結に伴う行政の対応について

《内容》

1 国道 355 号バイパスの工事状況について

【意見等】

開通見込みなどが分かれば、教えて欲しい。

【回答】

国道 355 号は、来栖の J R 高架橋工事が終わり、開通しています。県では、そこから、バイパスを通して、涸沼川に橋をかけ、笠間駅の南側の「笠間つくば線」まで開通させる予定です。橋の上部工事は平成 26 年度に行う予定です。皆様のご協力のおかげで用地買収は済んでいますので、最短でいけば平成 27 年度には開通する予定です。必ずしも予定通りにはいかないこともありますが、2 年も 3 年も延びることはないと思います。ただし、笠間つくば線の先（東側）については、用地の問題もあり、見通しがまだ立っていません。現在の状況では、機能的に半分位しかありませんので、笠間駅の南側までは、早急に開通するよう、県には働きかけをしています。

なお、現在工事中の石井の交差点については、平成 25 年度中に完了する予定です。

2 道祖神峠の要望書について

【意見等】

去年の 12 月くらいに朝日トンネルができたが、このままでは、県南と県北の格差が開くので、周辺幹線道路の整備を早急に行うとのこと。その整備計画に道祖神峠も入ると笠間市の活性化に繋がるのではないかとと思うので、市から要望書等を出してはどうか。

【回答】

昨年、土浦市と今の石岡市間に朝日トンネルが開通しました。開通前と開通後では、交通量が約 1.8 倍になっているようです。ただし、人口増減的にはつくば市以外はそれほど増えていませんので、今まで利用していた道路ではなく、開通した道路に利用者が集中している状態だと思います。

道祖神峠のトンネル化については、旧笠間市の時代に県への要望活動をスタートしました。そ

の後、市町村合併し、合併当初は県に要望する 5 項目の中に入っていたのですが、正直、実現性が難しいだろうと、現在は他の道路を要望しています。今後、道祖神峠のトンネル化を行うか否かは、議論をしなくてはなりません。

朝日トンネルは、土浦市と石岡市が国と県の補助金以外に合併特例債を活用して、地元自治体の実質負担を減らして工事を行った経緯があります。道祖神峠の場合には、笠間市と石岡市で行うわけですが、県の補助金だけで事業をやるとなると地元負担が多くなるので、内部でも議論しなくてはならない課題のひとつだと思います。

3 区長要望の窓口について

【意見等】

市への要望書関係の窓口は管理課だが、年度別の進捗状況などを発表しているのは、区長制度の所管課である総務課なので、窓口を秘書課か総務課に統一したほうがいいのではないか。

【回答】

区長からの要望は、毎年 100 件ほどいただきます。全部要望通りにできるのかと言われますと、なかなかできないこともあります。しかし、市としては、区長制度の中で地元の方々からの要望ということですので、できるだけ、前向きに取り組んでいることはご理解をいただければと思っております。管理課に要望書を提出し、答えるのは総務課というところ、確かに総務課は現場をわかっているわけではありませんで、どういう方法がいいのか議論してみます。

4 生活道路の整備について

【意見等】

穴が空いていたり、アップダウンがあったりと、既存の道路事情が非常に悪い所が目立つように思う。既存の道路を見直してはどうか。

【回答】

生活道路に事業のウェイトをおくことは、議会にも、市民の皆さんにもお伝えしています。一方で、我々行政に長期的な課題として投げかけられているのは、少子高齢化、人口減少社会の中で、これまで作ってきた公共施設が、30 年 40 年経過し、老朽化してきていることです。これは道路も 마찬가지です。こういった社会資本の維持管理をどうしていくかが、大きな課題になっています。その中で、幹線道路以外の生活道路の整備について、いろいろな角度から考えていかなくてはならないと考えております。

特に、区長要望でも U 字溝設置などの排水整備や路面の傷みによる舗装の改修、狭い道路の拡幅などの 3 点が道路関係の要望として多くいただきます。生活道路にはランクづけをしているわけではないので、例えば本戸地区だったら利用が多い割に狭い道路だなどと思うところを区長からご意見をいただいたりしています。行政としてもそういうところに注意を払っていきたいと思います。

5 今後の行政改革について

【意見等】

将来、笠間市が魅力のある市になるために、行政が大きく変わってほしい。図書館を民間に委託した佐賀県の武雄市のように、市として大きな魅力ある動きはあるのか。例えば、市の方から武雄市や矢祭町などのマスコミに取り上げられたような自治体に、研修視察をしたことがあるのか。

【回答】

行政改革は永遠の課題であります。行政も常にスリム化したり、いろいろな見直しをしたりしなければいけないということは、おっしゃる通りだと思います。経費の削減という意味では職員を減らすなどの人件費の削減を行っています。議会議員もだいぶ減りましたし、農業委員も今回 6 人くらい減りました。職員数は、例えば、合併後から平成 25 年度までの間に、約 100 人の職員減を行っています。どうやって補っているかというところ、指定管理の導入等です。行政が直接やる

よりも、民間にお願いした方が、民間のノウハウを活かしてサービスが向上することもひとつの利点です。武雄市が図書館を民間に委託した方法も同じです。特に、図書館にコーヒーショップを入れるなどの斬新さが、全国的にも珍しく話題になりました。ただし、民間に預ければ、すべてうまくいくのかということ、そこはやはり、市の方の行政管理をしっかりしていかなければなりません。

次に、視察については、必要だと判断したところには行っています。予算の中に占める視察の割合というのは、昔の行政から比べたら3分の1くらいしかありません。本当は、実際に目で見ることが必要ですから、いろいろな先進地へ行かせたいと思っていますが、遠くまで行かせると、交通費がかかるので我慢をしている部分があるのも現状です。ただ、「これは」というところには、行かせています。

笠間地区で活性化や賑わいと言ったら観光です。定住人口を増やすというのは、非常に厳しい側面があります。笠間地区は交流人口をどう拡大していくかです。観光というと、笠間稲荷神社や井筒屋などの門前通り周辺の賑わいを取り戻すことです。そして、笠間芸術の森公園周辺が新しい観光の拠点になっていますので、市の方では公園前の遊歩道の拡幅等の取り組みをしています。その2つ拠点を中心に交流の拡大を測っていきたいと考えます。

6 通学路への大型車の進入について

【意見等】

81区から南小への通学路には、大型車が進入していて危険なところがあるので、標識を立ててほしい。

【回答】

通学路の状況などをよく見て、警察の方と協議してみます。

7 笠間中学校への進学者が増加した理由について

【意見等】

南小学区から笠間中学校に19人も今年行ってしまった。学校の統廃合は平成27年からということだが、教育委員会の対応について説明してほしい。

【回答】

市内で学校統合があるのは、笠間地区だけです。平成27年4月1日から東中学校が笠間中学校へ、箱田、東、佐城小学校が笠間小学校へ統廃合していくということで、準備委員会を立ち上げて進めています。その後、児童・生徒数が減って、1クラスの状況が続いている、また今後も続く見込みの学校については、再度、学区審議会を開いて検討していきます。南小中学校については、現在のところ、統廃合の対象には入っていないので、統廃合の対象外の学校と同じように対応していました。ただ、南中学区の保護者の方から聞いたのですが、中学校では好きな部活をやらせたいので、通えるなら大規模校で子どもを育てたいという意見もありました。今年の場合には、部活が原因で19人の子が笠間中学校に行きました。教育委員会としても保護者の方々に対して、1クラスの状態が長く続く場合には、統廃合の条件に当てはまり、南中学校も統廃合を考える事になってくるかもしれませんとの説明はしました。しかし、児童のなかには、中学校はたくさん部活を選択できる場所に行きたいという願いがあることも事実ですので、来年に向けてよく説明していきたいと思いますが、地域でも話し合いをしていただくこともお願いしたいと思います。

8 農薬の処分について

【意見等】

親の代に使った農薬の残りがあり、処分に困っている。農薬の処分はどこでできるのか。

【回答】

農薬を取り扱っているお店、例えば農協や農薬取扱店で引き取ってもらえることがあります。いろいろ剤形がありますので、それによって対応法が違ってくると思います。薬品が分かれば、農政課まで教えていただきたいと思いますが、例えば、今は禁止されている薬なのか、または、禁

止されてかなり期間が経ち、処分期間が切れてしまっている薬なのか、具体的にご相談いただければと思います。

9 いじめ防止法の対応について

【意見等】

いじめ防止法が成立したが、それに絡んで市や学校で対応を考えていることがあれば聞かせて欲しい。

【回答】

いじめ防止法では、何人もいじめを許してはいけなないとあります。これは国会の資料で読んだもので、具体的な市町村の取り組みや学校の取り組みについて、まだ国から明確な資料はきていません。この法律の施行は、半年以内ですので、もう少しすれば、国から示されると思いますが、学校と教育委員会でいじめを防止するための基本計画等を作っていくことになると思います。

本市の取り組みとしては、子ども達のアンケート調査等を行い、早期にいじめを発見しようとしています。それから、各学校でいじめがあった時には、すぐに対応しています。いじめはどんな学校でも、どんな子ども達の中にも発生し得るという目で見ていく必要があると思っています。もちろん、子ども達がいじめをしないという心の教育、いじめを許さない環境づくりをしていくということが必要です。心の教育では笠間市は全国に先駆けて自殺予防教育「命を大切にする教育」に取り組んでいます。苦しいことがあったら誰かに伝えれば、助けてくれる人がいるというスキルを学ばせることを小学校1年生から中学校3年生まで計画を立て、取り組んでいます。

10 若い人が意見交換をする場や、世代間の交流ができる場はあるのか

【意見等 1】

年配の方は各地区で集会があり交流ができていますが、若い方が市に意見を言ったり、年配の方と一緒に議論したりできる場があるのか。

【回答 1】

地域によってそれぞれですので、一概には言えませんが、三世代交流とか保護者と地域の方との交流とか、地域のお祭りを通じて意見交換をしているなど各地域でいろいろあると思います。

行政と若い方との意見交換の場という、例えばこういう市政懇談会をやっても、若い方は正直言って参加者が少ないです。仕事の時間帯と重なるのでしょう。ただ、日曜日にやっても若い方は少ないです。ですから、若い方の場合は我々の方から伺っていきます。PTAの女性委員会があるのですが、その方達と意見交換すると子育てや地域のことや学校のことなど、いろいろな意見を聞くことができます。

【意見等 2】

以前は、盆踊りを通じて交流があったが、現在は中止になってしまって交流の機会が絶たれている。例えば、三世代交流やほかの地域の交流会などの情報を広報等で教えてもらえると参考にできる。

【回答 2】

日曜日にバーベキューをやったり、昔の遊びを高齢者が教えたり、縁日をやったり、三世代交流をしているところはあります。学校単位でやったり、地域単位でやったりといろいろです。地域の活動情報も何らかの情報媒体を使って伝えるようにしたいと思います。

11 笠間稲荷神社門前通り整備計画について

【意見等】

笠間稲荷神社境界の賑わいを取り戻すために、整備を行うということだが、井筒屋をどういってお店にしていくのか。また、今の状況はどうか。

【回答】

井筒屋の3階建ての建物は市が購入したので、今後、市で改修をしていきます。第一弾として、耐震診断を発注するところです。耐震診断をやったうえで、補強を含めて改修整備を進めていきます。その後の利活用については、公募で決定した、水戸の(株)ステノというビジネスホテルや

飲食業を行っている企業が、3階建ての建物を含めた周辺整備の事業案を作成しているところです。運営は全体的にステノが行います。

市は3階建ての建物の耐震診断・改修を行い、その後はステノに貸すというかたちで進めています。それに合わせて、部分的なところに市の公共的な施設を整備していきたいと思っています。そして、遊歩道を作り、日動美術館から稲荷駐車場まで抜けられるような散策路を作っていくと思っています。

公共でやらなければならない部分と、宿泊や飲食の部分などの民間が運営する部分とに分けて、整備をしていきたいと思っています。あと1年でということは無理ですが、できるだけ早く進めていきたいと思っています。

12 笠間稲荷神社から笠間駅までの活性化について

【意見等】

笠間稲荷神社から笠間駅に行くまでの歩道は整備されたが、笠間駅周辺と笠間稲荷門前通りまでをどのようにつないでいくのか。

【回答】

笠間地区は、優先的に笠間稲荷門前通りと井筒屋の整備、そして、ここ十数年来の観光拠点となりつつある芸術の森公園周辺のギャラリーロードをグレードアップしていかなければなりません。

例えば、友部駅と岩間駅、稲田駅の駅周辺活性化プランができたのは、公的な条件が揃っていたからです。友部駅も岩間駅も駅周辺に市の土地があり、民間に投げかけても返事がないので、市が何らかの利活用を考えようということです。また、岩間駅も友部駅も駅舎の整備に市が多額の投資をしましたが、その投資に見合った波及効果がまだでていないので、駅周辺の利活用をしていこうということです。そして、福原駅と稲田駅はJRに整備していただき、稲田駅については、新駅舎の場所が移動したことで公共の用地ができました。そのタイミングで、石の百年館を高田石材が寄付してくれるという話があったので、このプランに載せました。

笠間駅から笠間稲荷神社に向かう通りについては、以前、歩道の整備をしました。今後、どういった活性化策があるかということ、弁天町の「道の市」のように笠間駅から弁天町・行幸町・荒町も合わせたイベントを年一回行ったり、弁天町の方たちが人車を復元して、実際に走らせてみたらどうかという意見もあつたりします。行政が率先して人車を動かすということではできませんが、協力はしていきたいという思いです。

13 見守り協定について

【意見等】

市の方では一人暮らしの見守りのために、業者と見守り協定を結んだが、もっともっといろいろな業者と協定を結んでほしい。

【回答】

見守り協定については、ここ半年でいばらきコープ生活協同組合・生活協同組合パルシステム茨城や常陽銀行と協定を結びました。常に仕事で各家庭をまわっている事業者の方たちと見守りの協定を結んで、一人暮らしのお年寄りのところに行ったときに、いつもいる人がいなかったり、倒れていたときには、すぐに連絡をくださいという協定です。これは、ひとつの網にかけるより、2重3重になっていった方が、より効果がありますので、今後とも、定期的に各家庭をまわっているような事業所と協定を結んでいきたいと思っています。

14 緊急通報システムについて

【意見等】

緊急通報システムの基準が厳しくなった。財政との絡みもあるのだろうが、一人暮らしの高齢者には必要な事なので、基準を少し緩めてほしい。

【回答】

制度的に対象者を絞り込んでいるものはあります。高齢者対策として制度を作った時に、1だ

った対象者が、今は3や4になっている制度がたくさんあります。例えば、敬老会ですが、敬老会ができた時は、65歳以上が対象でした。ところが、70歳になり、今は75歳になりました。それは、対象者が事業を開始した時から比べて、人数が増えていったので、年齢を引き上げていったわけです。いろいろ苦心したのですが、対象年齢を引き上げているものはいくつかあります。その制度を維持し、対象となる人たちのために制度を継続していくというのであれば、全体の年齢が上がっている以上は、対象年齢も上げていかざるをえないです。心情的には、上げたくはないと思っているのですが、全体の施策の中で考えていくと難しい面があります。皆さんからは、なんで今までこうだったのに、私たちは対象外になってしまうのかということに必ずなりますので、市は懇切丁寧に説明していかなくてはならないと思います。

15 田上地区の市道の整備について

【意見等】

福原の高速道路のインターから梶山一級市道に通じる道路の整備はどうなっているのか。また、土地改良を行った際にできた道路について、市にお願いすれば砂利を敷いてもらうことは可能なのか。

また、鍛冶屋地区の市道で狭い部分があり、県道が完成すればいいのだがなかなか難しい。整備されている市道を本戸神社の十字路のところまでひいてくれないか。

【回答】

田上地区から鍛冶屋地区に抜ける道路の件と思うのですが、その件についてはまだできませんが、あの狭い区間をどうしていくのか検討するため、今年は測定の予算をつけました。ただし、土地改良で作ったような大きな道路は必要ないと思っています。車が交互通行できるような幅があればよいのではないかと考えています。測量して、道路ができるまでには、まだ少し時間がかかりますので、どういう形でやっていくか検討します。

土地改良で整備した道路の砂利は、管理課に言ってください。本戸神社のところは、稲田友部線の県道が、今年完成します。しかし、それに伴って、交差点の改良までは考えていません。

16 TPP締結に伴う行政の対応について

【意見等】

TPPについて、実際にはじまったときに困らないように指導をしてほしい。

【回答】

農業関係者には本当に大きな関心の的であるTPPについては、正直、市町村にはなんの情報も来ていません。国で議論しているのであって、私たちが情報を得られるのは、新聞やインターネットなどです。ただ、安倍首相は、「TPPはやるけれども、米を含めた主要5品目は守っていく」と言っていますので、政府の取り組みを見ている状況です。ただ、TPPをやってもやらなくても、農業は地域のひとつの大きな産業ですので、行政としてはしっかりと支えていかなくてはならないと思っています。ただ、役所が支えれば農業はうまくいくのかと言われると、それはまた別問題です。農業をやる人も努力してもらって、役所も地域の産業ですので協力していく。そういう形が必要なのではないかと思っています。